

---

# 映画恨

たかぴょん

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

映画恨

### 【Zコード】

Z3468D

### 【作者名】

たかぴょん

### 【あらすじ】

台風やむかしの田舎の風景。大きな白いテロップ白線のような効果音は別撮りで苦々しい胡麻すりのノウバの姿。東北の冬は寒い

……でも映画

おしるここと映画はどつこい、どつこいだとわが憧れの太宰治さんはある記事に書いていた。たしかにどちらもおいしい。職場のわたしは眞面目人間で通つており、仕事はあまり出来ないが誠実である。そんな水風呂と白濁温泉を、また、き漫かつているような童貞男の人物評価。くわばら。生活の柱から冷たくされるより嫌悪なことはない。渋谷東急シネマ会館の前を通るときも、映画が放つ?シトラスブルー?のような香りに鼻を引っ張られる。が、目線は反対車線の一杯百八十円の喫茶店へ食い込まれている。左右正反対。どちらにしようか。もちろんわたしの血液型はABである。

映画からは足を洗つた。わたしは銀幕のヒーローを窓越しに見るのでなく、そいつを鏡に化学変化させてやろうと誓つた。幼児期から深夜テレビで『青春とは何だ』の再放送に夢中であつたし、あらゆるサスペンス劇場、洋楽・邦楽、もちろん激しいベット・シンンまで釘入るように見ていた。だが教科書曰く 骨盤付近に毛が生えるようになつてから、八面鏡が欲しくなつた。つまりわたし自身が現実の社会で、わたし自身の人生を銀幕ヒーローのように生きたくなる。夢を追い、恋をし、人を愛そう。果ては地面に膝を付いて泣こう。わたしは中村雅俊だ。今晚寝る前に眉毛を抜いて整えよう。

化学用語で『慣性』というのがある。人間はある程度の欲求を満喫したあとは、それ以上の刺激を受けなければ満足しなくなる。

わたしは小さいころ、テレビCMに流れる映画広告が悪魔だと信じていた。次回の放映予定後、淀川さんが「新作を映画館でみましょうね。ではさよなら、さよなら」などと葉っぱをかけられることを立腹した。わたしの家には映画へ連れて行ってくれる人もいないし、またそんな金もない。あまりにも惨めで家族の居ない間にこつそりと泣いたこともある。子どもの癖に学校そっちのけで金のかからない映画が好きたつた。鑑賞後の充実感が好きだつた。有料チヤンネルなど論外であつた。

映画館は五回しか行ったことがない。一人で行つてもつまらない。暗闇の中でこつそり、隣に座つた愛する人の心の行方を探りながら、明るい前方を見つめるのが優越だ。電車では優先席というものがあるが、こちらは人生の優越席といったところ。映画は一人一人の心と、現実との狭間にフェンスを敷いている。飛び越えるのも、破るのも、潜るのもあなた自身にかかっている。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3468d/>

---

映画恨

2010年10月11日01時17分発行